

第2章

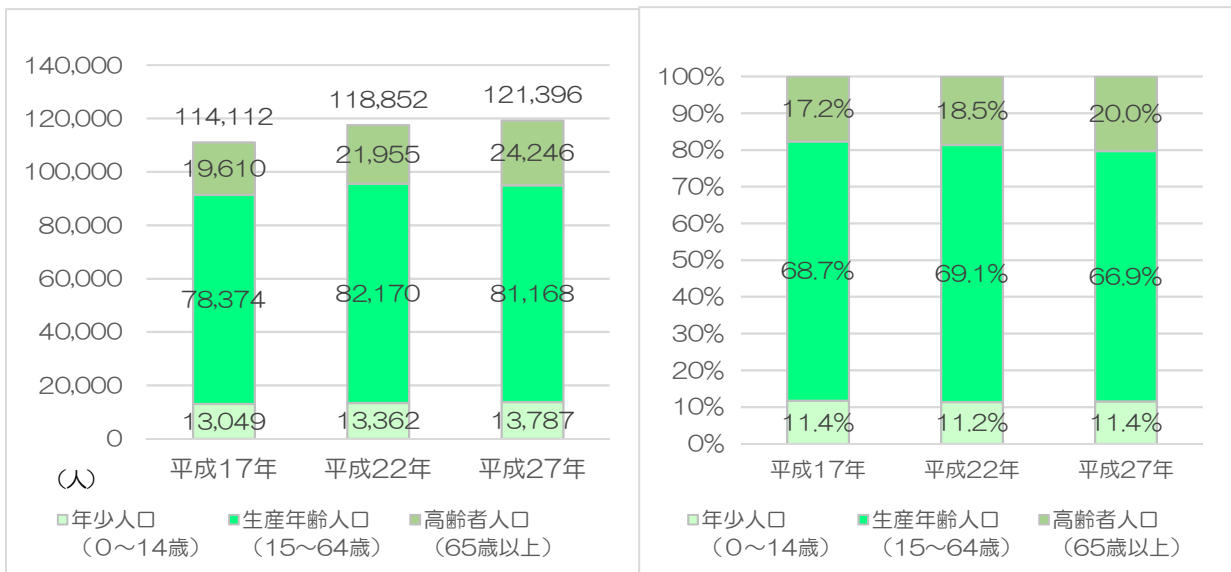
小金井市の子ども・子育てを 取り巻く環境

1 人口・世帯・人口動態等

(1) 人口の推移 (国勢調査より)

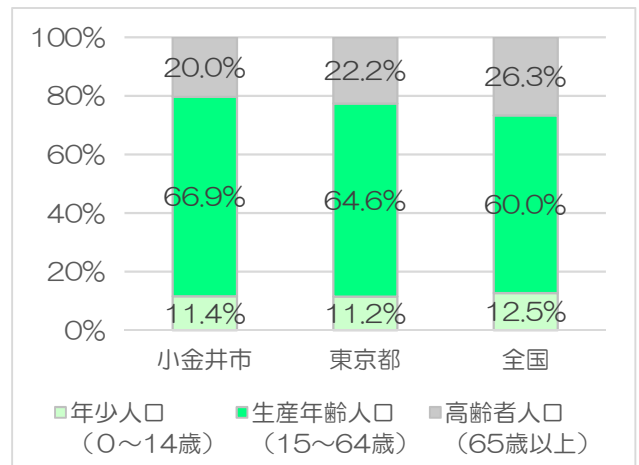
小金井市の人口は、近年増加傾向となっており、年少人口も平成17年から平成27年までの10年間で約700人増加しています。人口割合については、年少人口割合に大きな変化ありませんが、高齢化は進行しており、高齢者人口割合は増加する一方、生産年齢人口割合は減少傾向にあります。

■年齢3区分別人口数及び割合の推移



小金井市の人口割合は、全国及び東京都に比べると、生産年齢人口割合は高い一方、年少人口割合と高齢者人口割合は低くなっています。

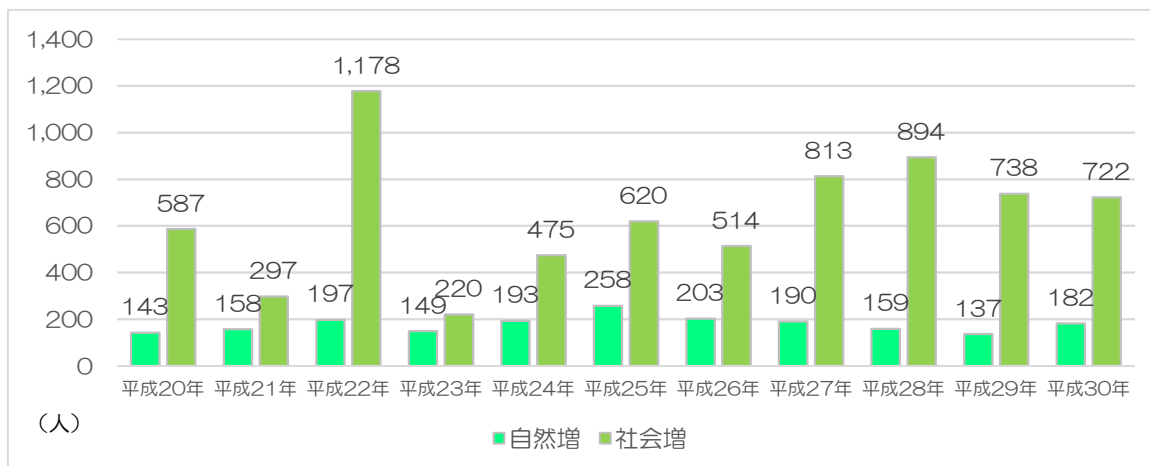
■平成27年人口割合の比較



(2) 自然動態・社会動態（小金井市事務報告書より）

小金井市の社会動態（転入－転出）は、ここ10年間はおおむねプラスで推移しており、人口増加の主な要因となってきました。また、自然動態（出生－死亡）も、ここ10年間はプラスで推移して、人口増加の要因になっています。

■自然動態・社会動態の推移

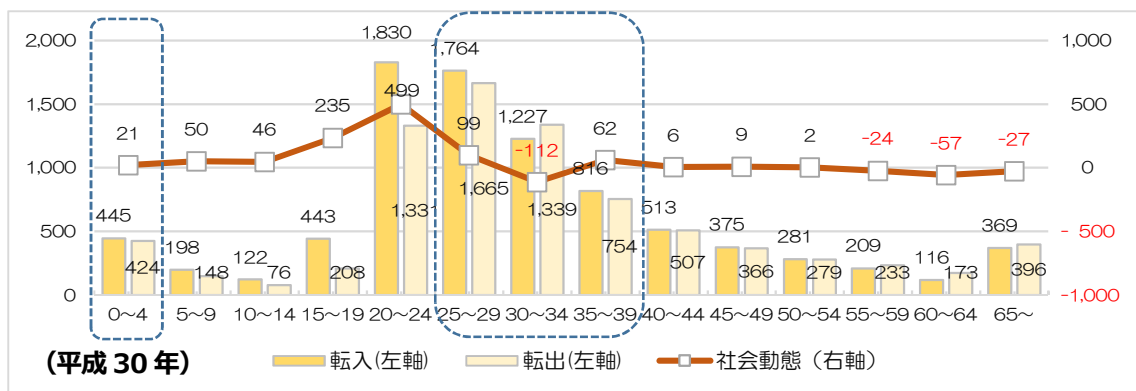
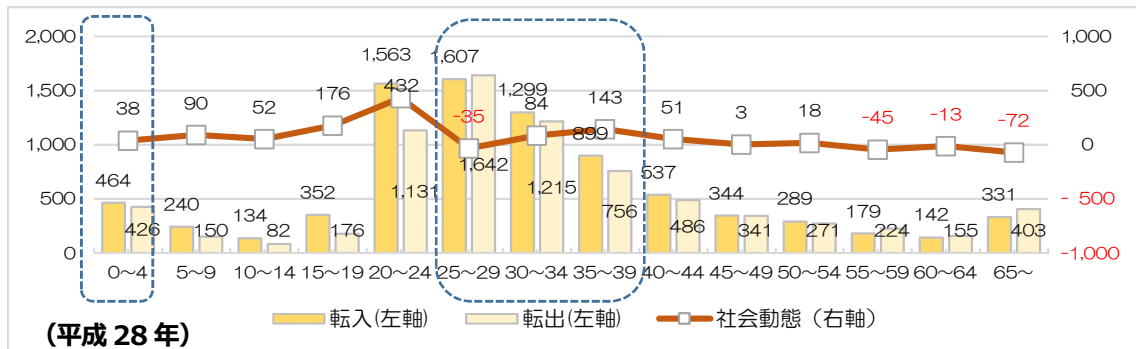
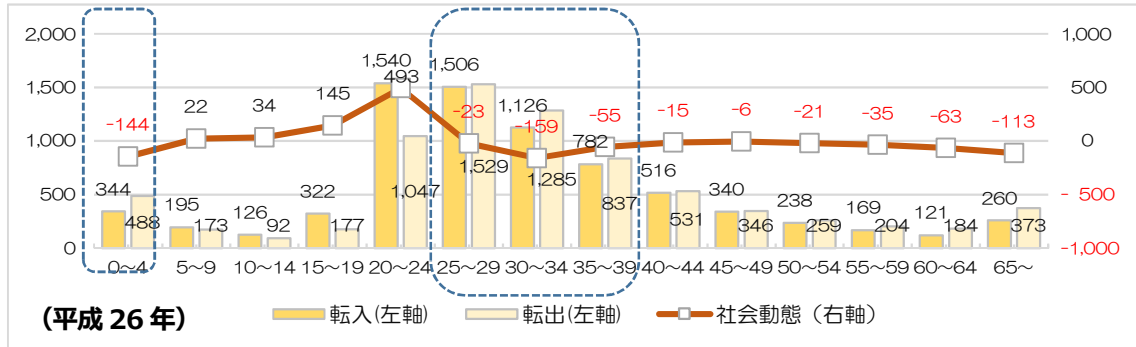


(3) 転入・転出の状況

小金井市の社会動態は、この数年間、増加（転入超過）で推移しており、特に15歳～24歳で増加しています。25歳～39歳及び0歳～4歳についてみると、平成26年は転出超過でしたが、平成30年は転入超過となっています。

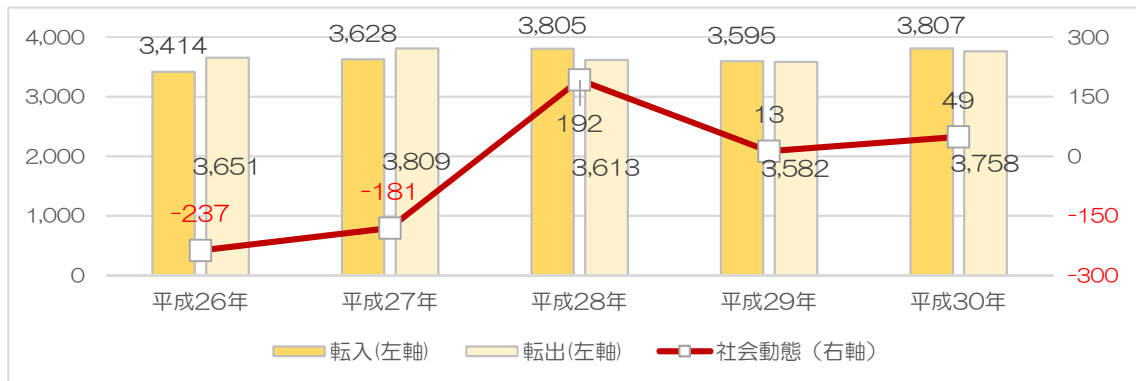
■ 5歳階級別転入・転出の状況

(人)



■ 25歳～39歳の転入・転出の推移

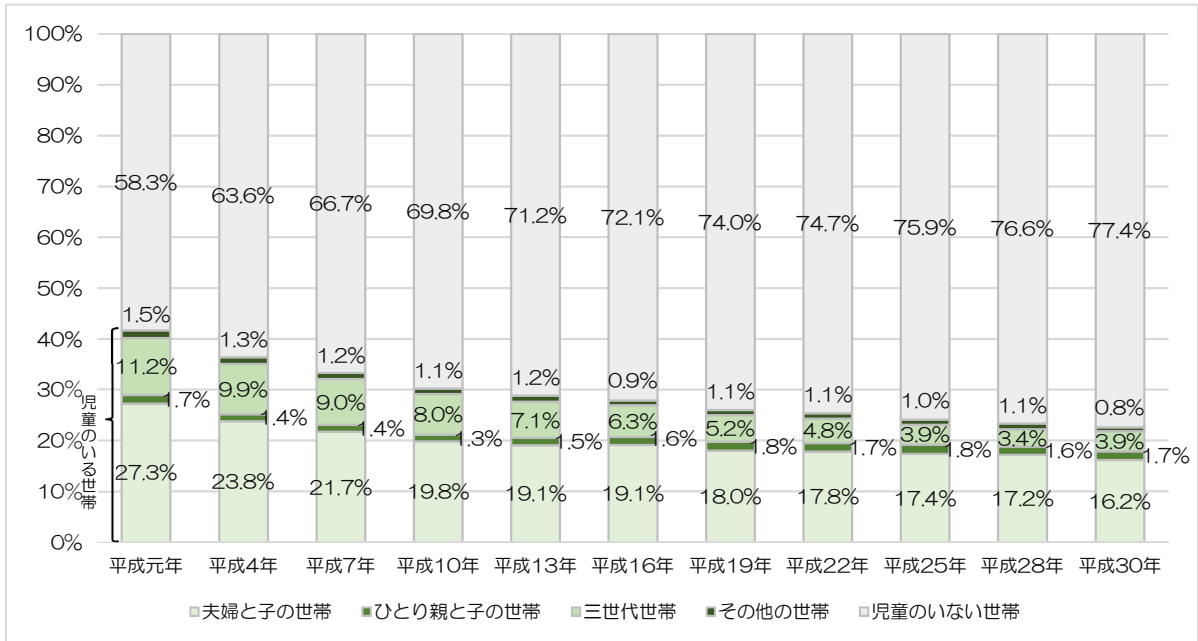
(人)



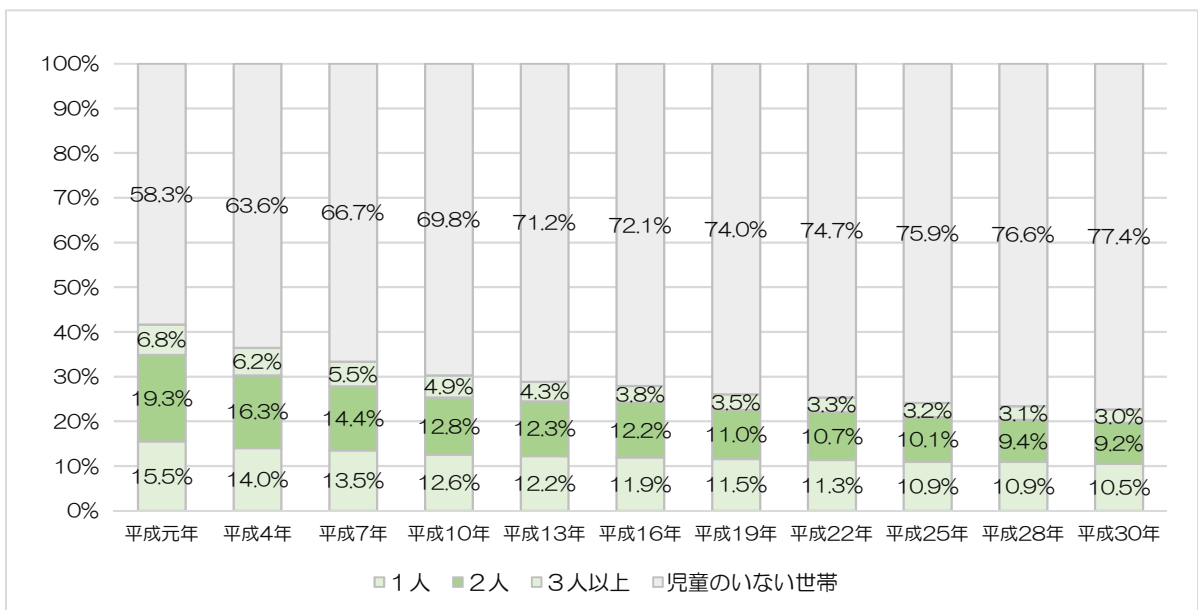
(4) 児童のいる世帯の変化（厚生労働省・平成30年国民生活基礎調査より）

過去約30年間の年次比較をみると、平成30年で児童のいる世帯は、全世帯の22.6%、平均児童数は1.7人となっています。また、世帯数の構成割合・平均児童数の年次推移で平成30年をみると、児童が「1人」いる世帯は全世帯の10.5%、「2人」いる世帯は9.2%となっており、子どもがいない世帯は、全世帯の約77.4%と少子化が進んでいるのが、全国の統計からもみてとれます。世帯構成の変化によって子育て環境は変化をしています。

■児童の有無別にみた世帯構造別世帯数の構成割合の年次比較



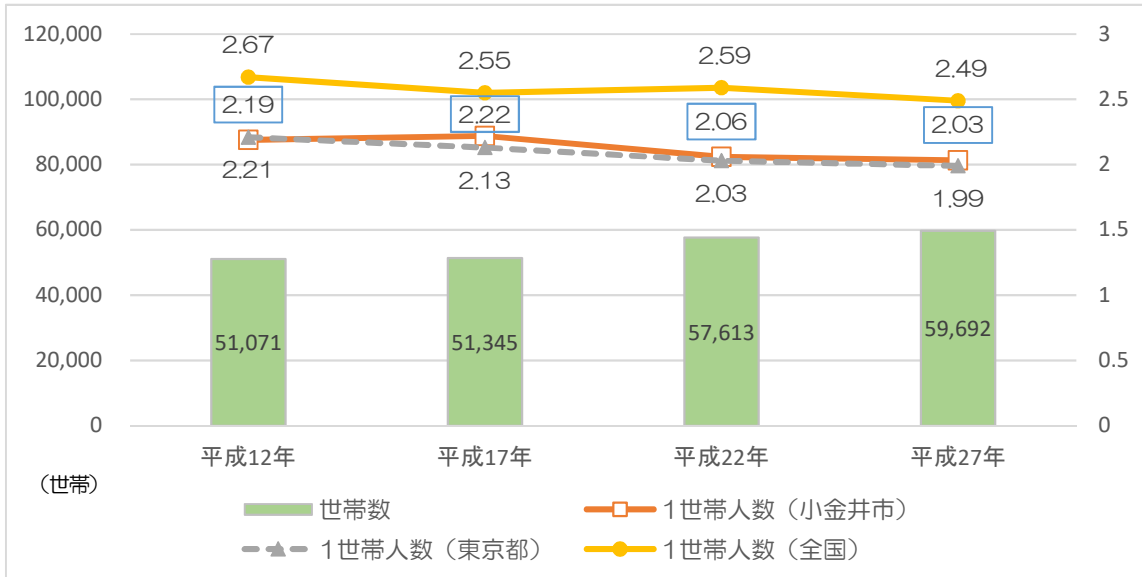
■児童の有無及び児童数別にみた世帯数の構成割合



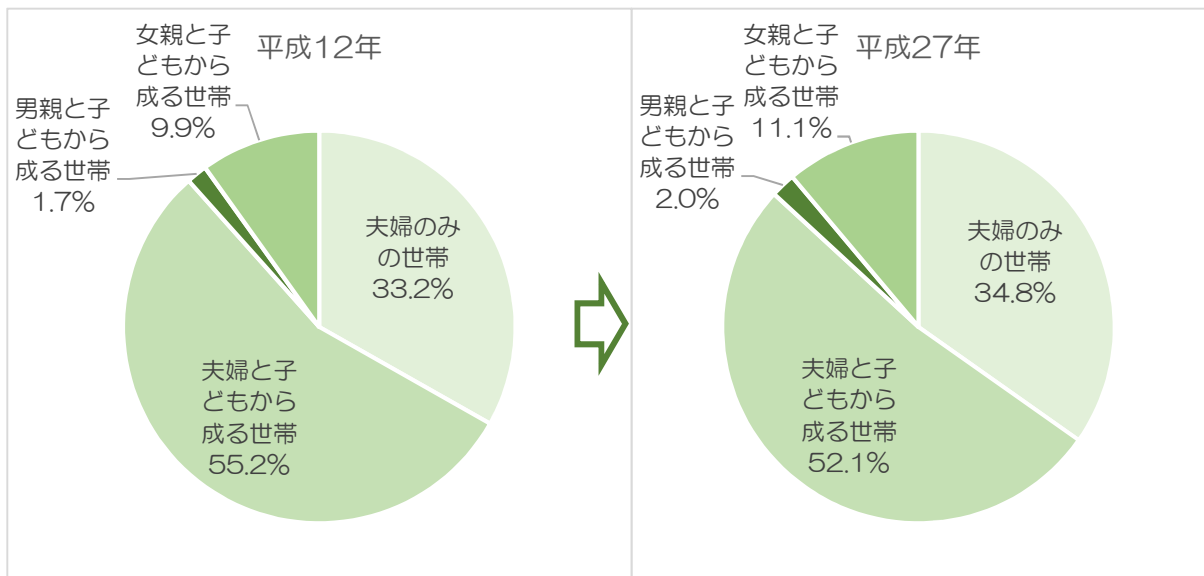
(5) 世帯の状況 (国勢調査より)

小金井市の世帯数は増え続け、平成17年からの10年間で約8,300世帯増加しています。ただし、1世帯あたり人員は減少し続け、核家族化が進展しています。核家族のうち、「夫婦と子ども」の割合が減少し、「夫婦のみ」、「女親と子ども」の割合が増加しています。

■世帯数および1世帯あたり人員の推移

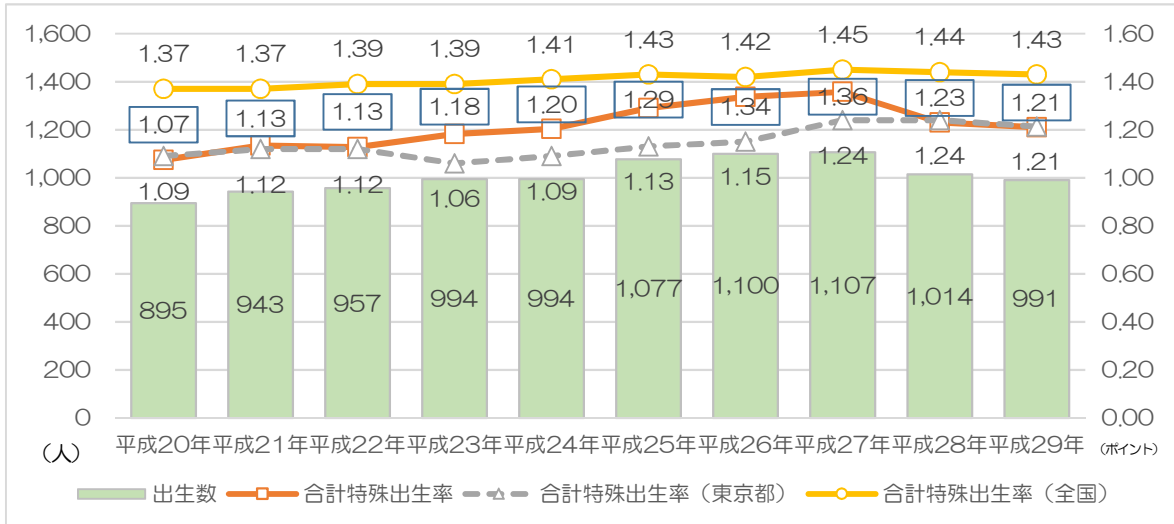


■核家族世帯の構成比



(6) 出生の状況（人口動態統計（東京都福祉保健局）より）

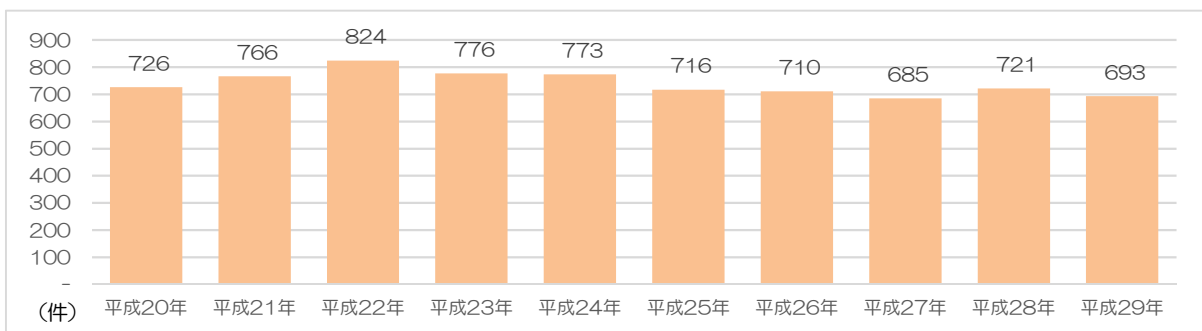
小金井市の出生数は、平成20年から10年間で、約100人増加しています。合計特殊出生率は、全国平均出生率を下回っています。平成20年の1.07ポイントから平成27年には1.36ポイントに上昇したものの、平成28年には減少に転じました。将来にわたって人口水準を維持できる2.07ポイントには至っていないため、転入や高齢化を除く自然動態では人口減少が進むとみられます。



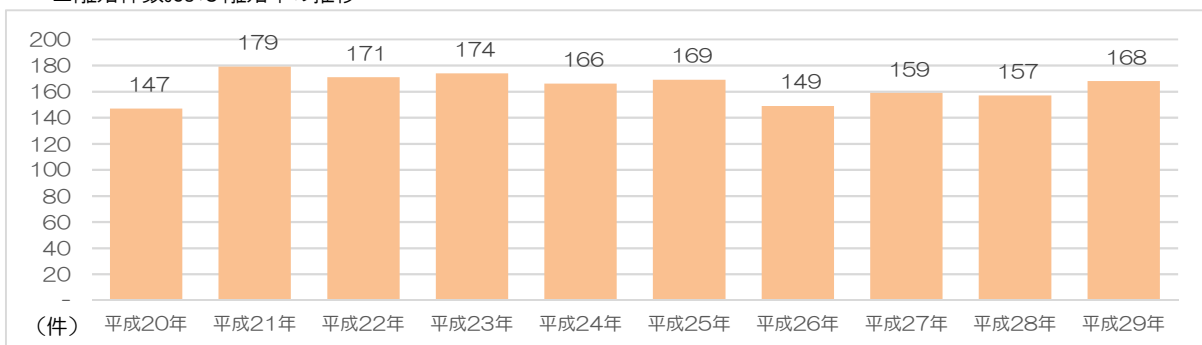
(7) 婚姻・離婚の状況（人口動態統計（東京都福祉保健局）より）

小金井市の婚姻件数、離婚件数は、年度による増減があるものの、おおむね横ばいで推移しています。

■婚姻件数および婚姻率の推移



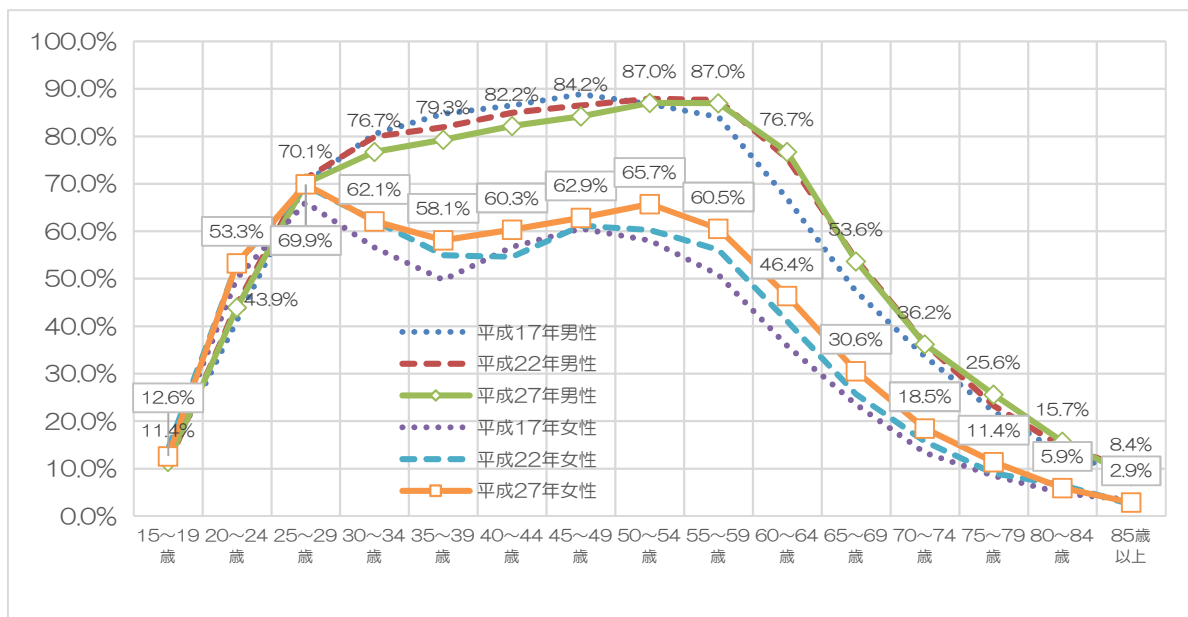
■離婚件数および離婚率の推移



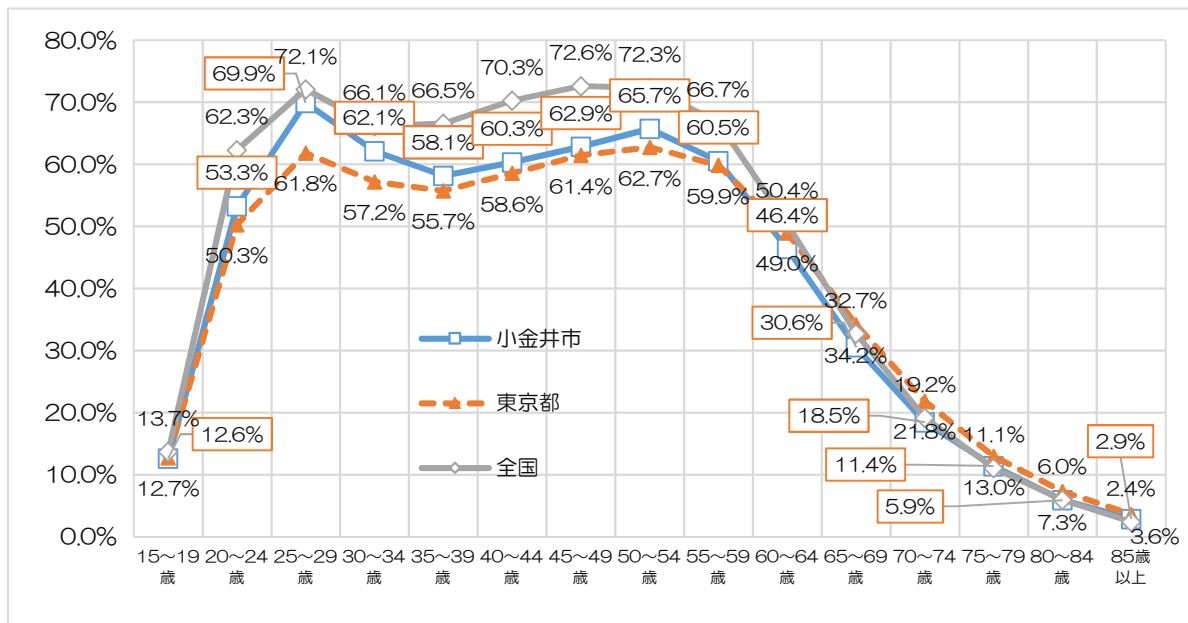
(8) 就労の状況 (国勢調査より)

小金井市の年齢別労働力率をみると、男性の20歳代までの労働力率は約7割で、30代でも8割弱で、就労支援が必要な状況とみることができます。また、女性の20歳代の労働力率が上昇し、30～34歳の年齢層で低下する、いわゆる「M字カーブ」は解消に向かっているものの、30代、40代でその傾向は低い傾向のままです。女性の就労率に関し、25～29歳では全国平均並みであるものの35～49歳では全国平均より約10ポイント低くなっています。

■小金井市の年齢別労働力率 (M字カーブ) の推移

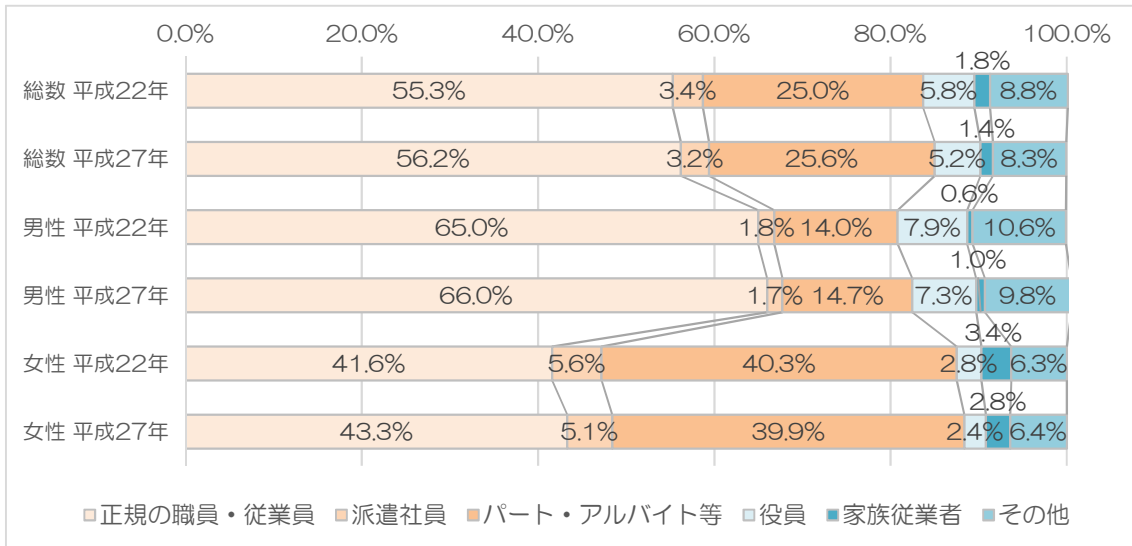


■女性の年齢別労働力率 (平成27年) の全国・東京都比較

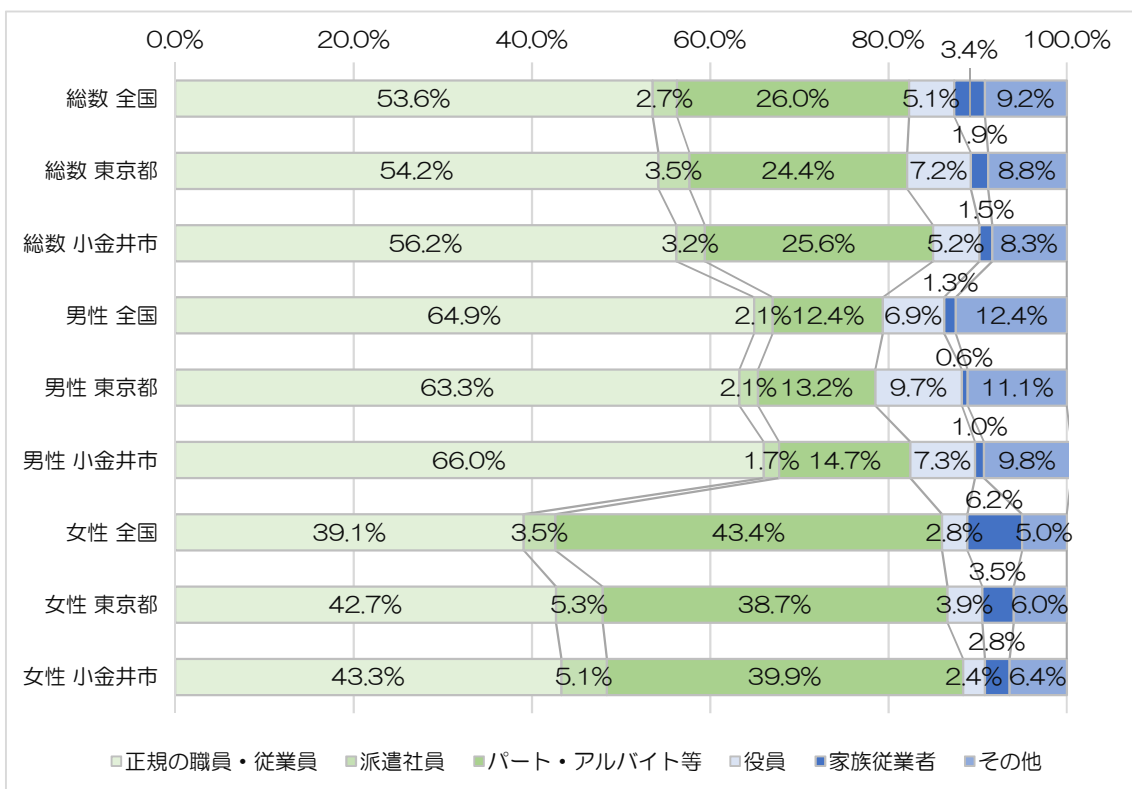


従業上の地位別従業者数割合でみると男性は「正規社員・従業員」の割合が最も高く、女性は「正規社員・従業員」の割合が平成22年に比べ増加しているものの、「パート・アルバイト等」と「派遣社員」を合わせた非正規雇用の割合は「正規社員・従業員」の割合を上回っています。男女ともに「正規社員・従業員」の割合が全国・東京都より多くなっています。

■従業上の地位別従業者数の割合



■従業上の地位別従業者数の割合（全国、東京都比較）

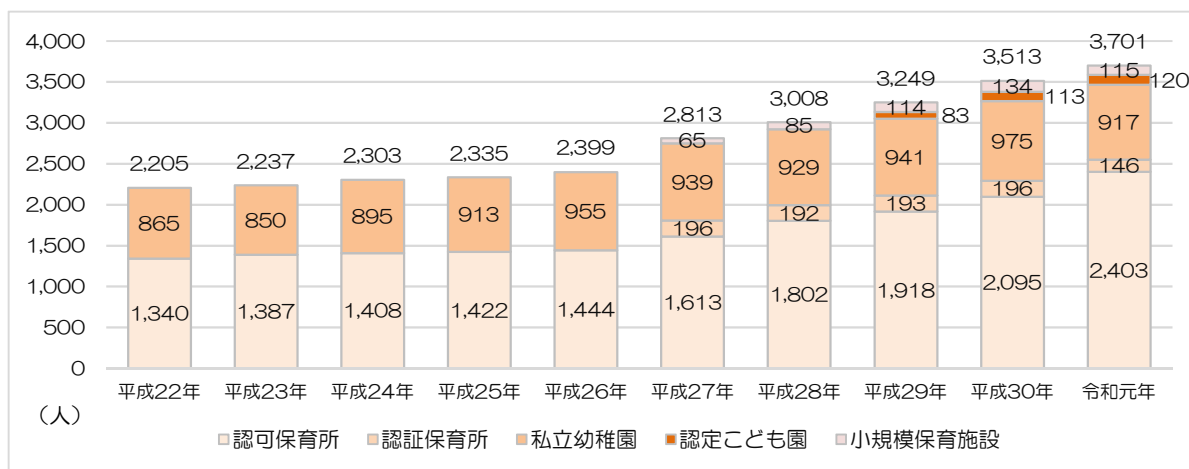


2 教育・保育施設の状況

(1) 利用児童数の推移

最近 10 年間、小金井市内の認可保育所の利用児童数は、増加傾向にある一方、私立幼稚園の利用児童数は、横ばいで推移しています。小規模保育施設は平成 27 年に実施されて以降、また、認定こども園は平成 29 年に実施されて以降、利用児童数が増加しています。全体では、増加傾向がみられます。なお、平成 26 年以前の認証保育所の利用児童数は、把握されていません。

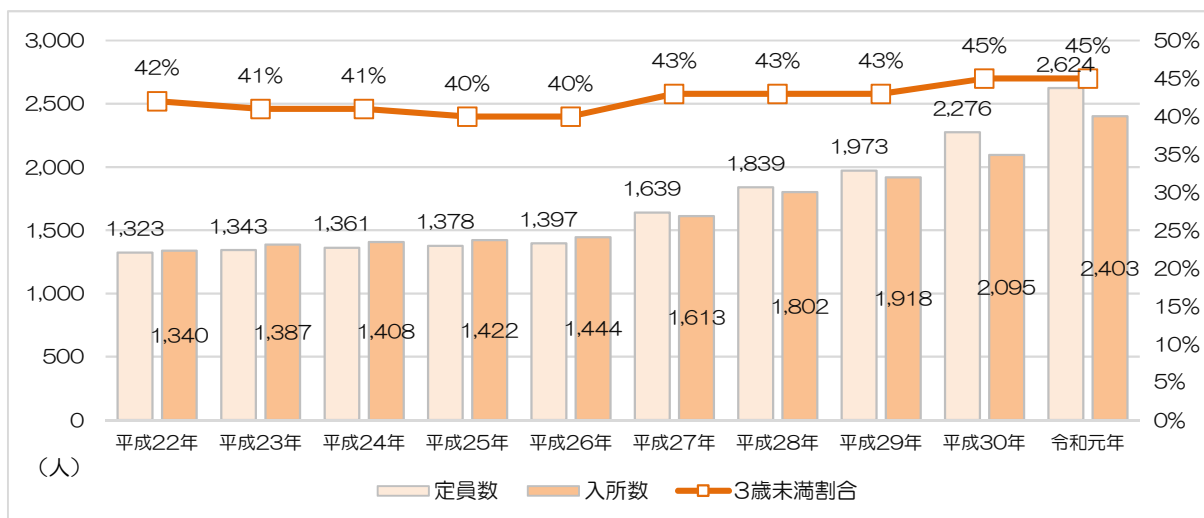
■認可・認証保育所、私立幼稚園、認定こども園、小規模保育施設の利用児童数の推移



(2) 認可保育所の利用状況

小金井市内の認可保育所への入所者数は、増加傾向にあります。3歳未満児の利用割合は横ばいとなっています。定員数は、令和元年に2,624人と過去5年間で約1.9倍に増加しました。

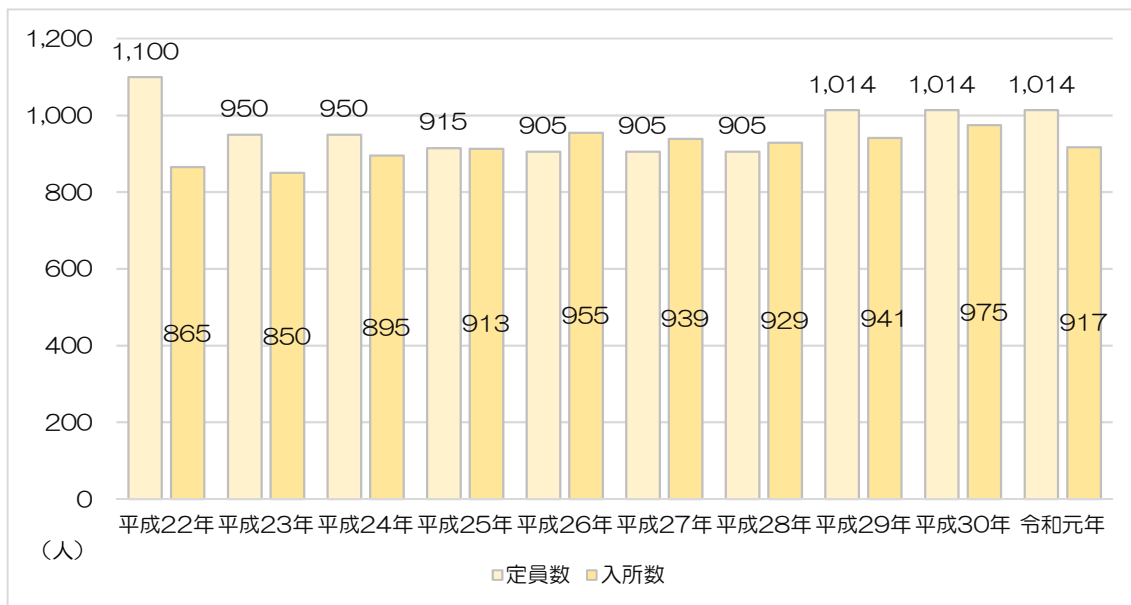
■保育所の定員数、入所数、3歳未満児割合の推移



(3) 私立幼稚園の利用状況

小金井市内の私立幼稚園利用者数は、横ばいで推移しています。定員数は、平成22年は1,100人でしたが、令和元年には1,014人に減少しています。令和元年で、定員1,014人に対し、利用者数は917人となっています。

■私立幼稚園の定員数、利用者数の推移



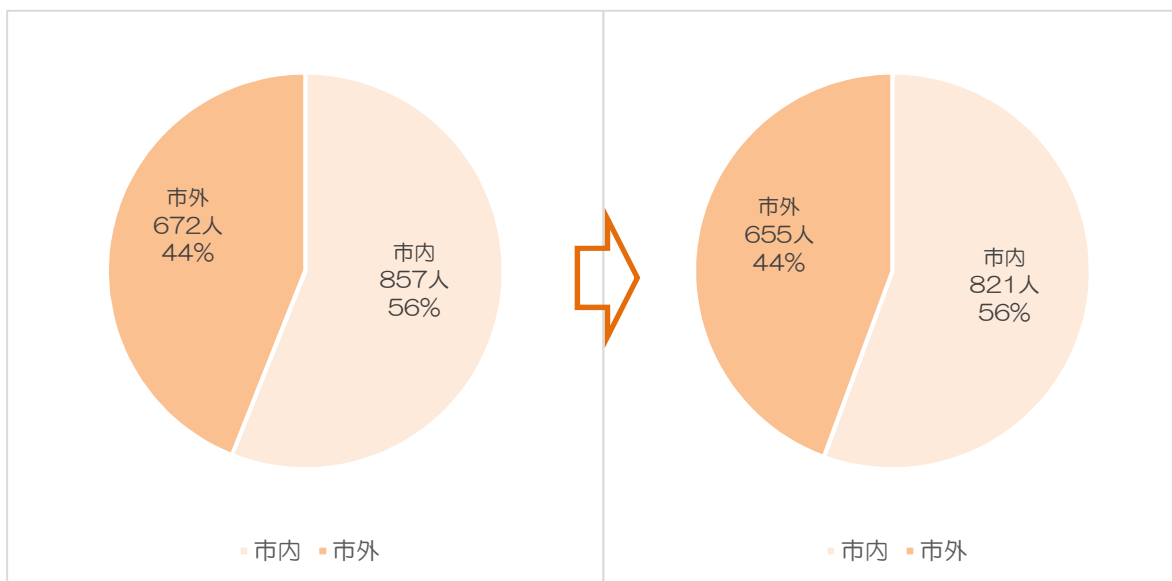
(4) 私立幼稚園の通園状況

小金井市の私立幼稚園利用者が通園している施設の所在地で見ると、44%の利用者が市外の私立幼稚園に通園しています。

■私立幼稚園所在地別通園状況

平成26年5月現在

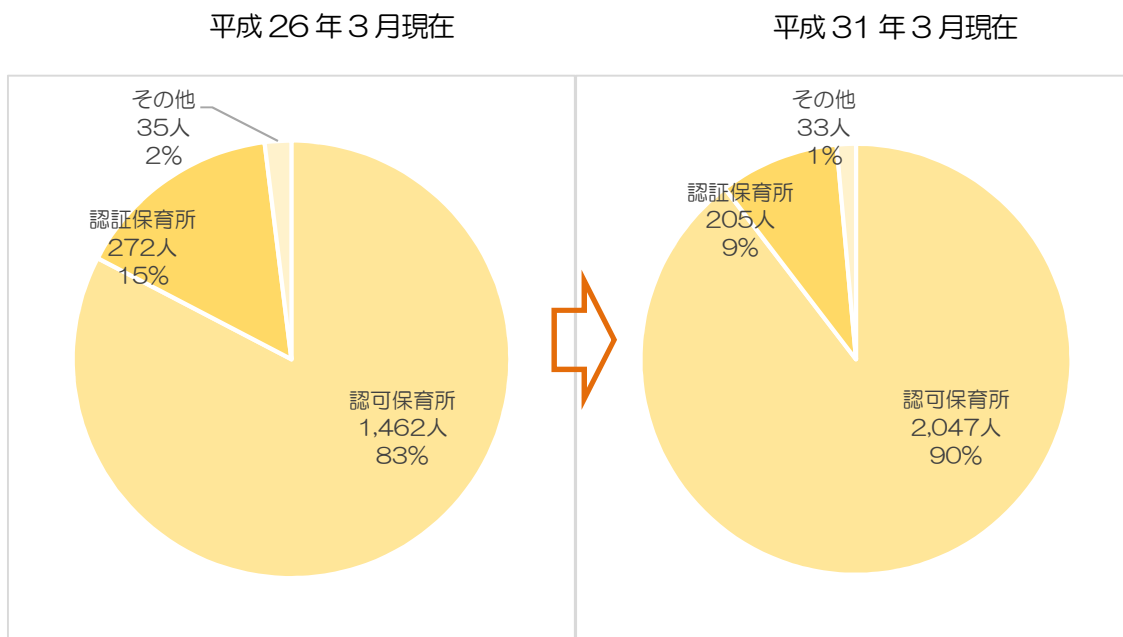
令和元年5月現在



(5) 認可・認可外保育施設の利用状況

小金井市内の保育施設利用状況の施設類型別では、認可保育所が90%であるのに対して、認証保育所は9%、保育室（定期利用保育事業）や家庭福祉員が1%となっています。平成26年3月現在の利用割合と比較すると、認可保育所は7%の増加、認証保育所は6%の減少となっています。

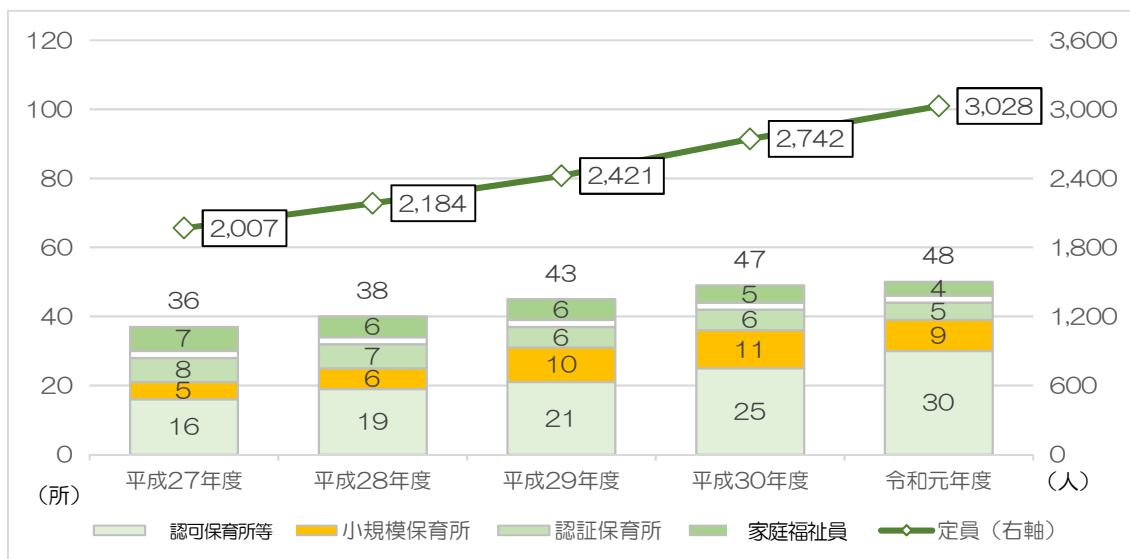
■施設類型別保育施設利用状況



(6) 保育施設数と定員の推移

小金井市内の保育施設数及び定員は、平成27年度が36か所、2,007人に対し、令和元年度は48か所、3,028人に増加しています。

■市の保育施設数と定員の推移



3 地域子ども・子育て支援事業の状況

地域子ども・子育て支援事業の実施状況は次のとおりです。

(1) 延長保育事業、休日保育事業

通常の開所時間（11 時間）を超えて、さらに延長して保育を行ったり（延長保育）、日曜日・祝日にも保育を行ったりする（休日保育）サービスです。

【実施状況】（平成 30 年度実績）

区分	延長保育	休日保育	夜間保育	幼稚園預かり保育
実施か所数	26	0	0	5
私立	21	0	0	5
公立	5	0	0	0

(2) 放課後児童健全育成事業（学童保育）

放課後における保育が必要な児童を対象に、放課後等における児童の安全・安心な居場所の確保と遊び・学習・各種体験活動の場を提供しています。

【実施状況】

区分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
実施か所数	17	17	18	18	18
登録児童数	798	862	922	972	988

【参考：放課後子ども教室実施状況】

区分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
参加者数	31,260	30,407	33,621	33,515	33,415
実施回数	798	751	822	840	879

(3) 子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）

【ショートステイ】

保護者の病気や出産、家族の介護、冠婚葬祭等への出席のため、家庭において児童の養育が困難になった場合、児童養護施設において子どもを一定期間（原則として7日以内）一時的に預かるサービスです。

【実施状況】

区分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
実施か所数	1	1	1	1	1
延宿泊数	75	61	49	37	38

【トワイライトステイ】

保護者が仕事やその他の理由により平日の夜間または休日に不在となり、家庭において児童の養育が困難な場合に、児童養護施設において子どもを一時的に預かるサービスです。

（平成 30 年度実績） 事業を実施していません。

(4) 乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）

生後4か月までの乳幼児がいる家庭を助産師または保健師が訪問し、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供を行うとともに、親子の心身の状況や養育環境を把握し、助言等を行います。

【実施状況】

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
訪問件数	1,196	1,279	1,270	1,130	1,170
出生数	1,123	1,087	1,065	1,008	1,066

(5) 養育支援訪問事業及び要保護児童対策地域協議会その他の者による要保護児童等に対する支援に資する事業

児童の養育について支援が必要でありながら、積極的に支援を求められない状況にある家庭に対し、過重な負担がかかる前に、訪問による専門的な指導や育児・家事支援等を行います。

【実施状況】

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
訪問家庭数	17	14	5	7	15
実施率	必要な家庭には全戸派遣				

(6) 地域子育て支援拠点事業

子どもたちの健やかな成長と、保護者が楽しく子育てできるよう、気軽に集う場を提供し、子育て相談、子育て情報提供、親子イベントなどを行っています。

【実施状況】 子ども家庭支援センター、本町児童館、東児童館、貫井南児童館、緑児童館で実施（ひろば事業）

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
設置か所数	4	4	4	5	5

(7) 一時預かり事業

保護者の就労や求職活動、病気やけが、出産、介護、冠婚葬祭、リフレッシュ等により一時的に家庭での保育が困難な場合に、週3日を限度に保育所に預けることができるサービスです。

【実施状況】

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
実施か所数	12	11	11	12	12
延利用件数	14,390	14,827	15,183	15,472	16,312

(8) 病児保育事業（病後児保育）

病気やけがの回復期にある乳幼児（病後児）を専用の保育室で看護師・保育士が預かるサービスです。

【実施状況】

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
実施か所数	1	1	1	1	1
登録児童数	275	395	523	636	763

※くすみ保育室で実施されている病後児保育：定員4名（1日あたり）

(9) 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）

子育ての手助けがほしい人（依頼会員）、子育てのお手伝いをしたい人（協力会員）、両方を兼ねる人（両方会員）に会員登録いただき、子育てのサポートを提供する相互援助活動を行います。

【実施状況】

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
依頼会員数	207	225	235	251	261
協力会員数	1,274	1,388	1,483	1,552	1,611
両方会員数	37	32	31	29	32
活動件数	3,207	3,340	4,235	4,086	3,682

(10) 妊婦に対して健康診査を実施する事業（妊婦健康診査）

妊娠中の母親の健康状態や胎児の発育状況などを定期的に確認するため、妊婦に対して健康診査を実施します。

【実施状況】

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
受診件数（合計）	11,626	11,494	11,497	11,092	11,917
受診件数（1回目）	1,105	1,050	1,063	1,056	1,061
受診件数（2回以降）	10,521	10,444	10,434	10,036	10,856
妊娠届出数	1,162	1,091	1,125	1,097	1,085
受診件数/妊娠届出数	10.0	10.5	10.2	10.1	11.0
妊娠届出数/0歳人口	1.2	1.0	1.1	1.0	1.1

(11) 利用者支援事業

子ども及びその保護者等、または、妊娠している方がその選択に基づき、教育・保育・保健その他の子育て支援を円滑に利用できるよう、必要な支援を行います。

【実施状況】

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
特定型 実施か所数	1	1	1	1	1
母子保健型 実施か所数	0	0	0	1	1

(12) 実費徴収に係る補足給付を行う事業

各施設事業者において実費徴収を行うことができることとされている①食事の提供に要する費用及び②日用品、文房具等の購入に要する費用等について、低所得世帯を対象に費用の一部を補助します。

【実施状況】

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
実施状況	—	実施	実施	実施	実施

4 ニーズ調査の結果概要

教育・保育・子育て支援に関する利用状況や今後の利用希望等を把握し、お子さんが健やかに成長できるまちとなるよう、さらなる子どもと子育て家庭の支援の充実を推進する小金井市子ども・子育て支援事業計画である「(仮称)のびゆくこどもプラン 小金井(第2期小金井市子ども・子育て支援事業計画)」(令和2年度から令和6年度)を策定するための基礎資料とすることを目的に調査を行いました。

- 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出
- 調査期間：平成30年11月15日～12月5日
- 調査方法：郵送配付・郵送回収
- 配布・回収：

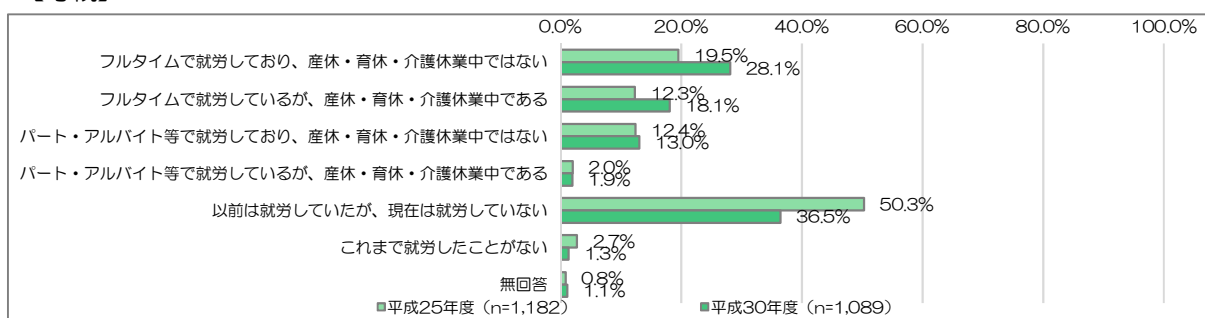
	就学前児童保護者	就学児童保護者	中・高生年代保護者	中・高生年代青少年	全体
配布数	2,000	1,500	1,250	1,250	6,000
回収数	1,089	782	582	395	2,848
回収率	54.5%	52.1%	46.6%	31.6%	47.5%

(1) 就学前児童の保護者調査

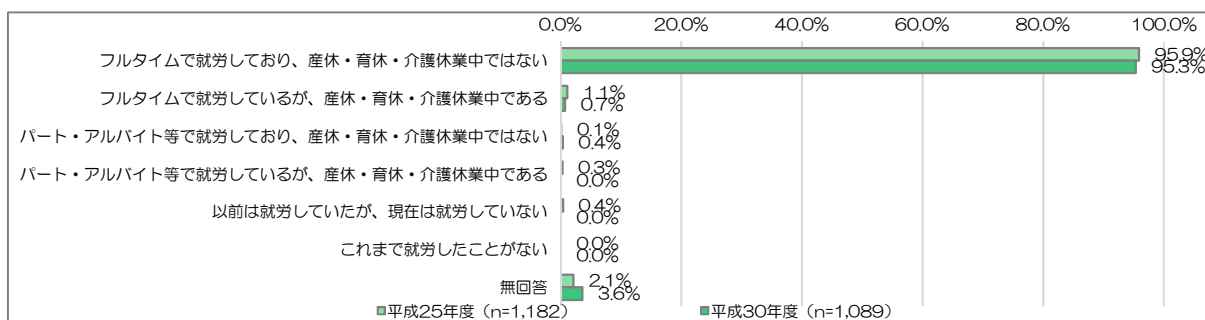
①保護者の就労状況

母親の就労状況について、「フルタイムで就労中であり休業中ではない」方が28.1%、「パート・アルバイトで就労中であり休業中ではない」方が13.0%となっています。平成25年度調査と比較すると、「フルタイム就労中」の方が8.6%、「フルタイムで就労中であるが産休・育休中である」の方が5.8%増え、フルタイムでの就労率も14.4%増えています。

【母親】



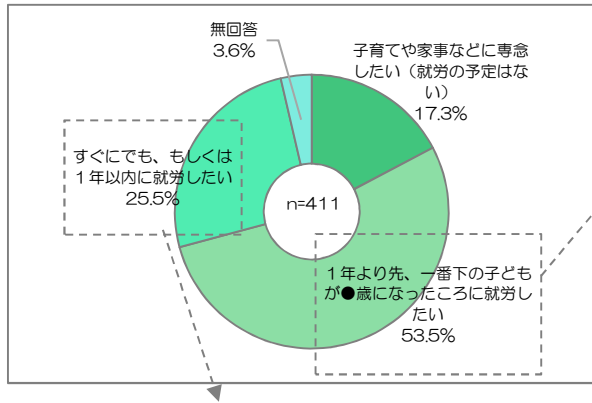
【父親】



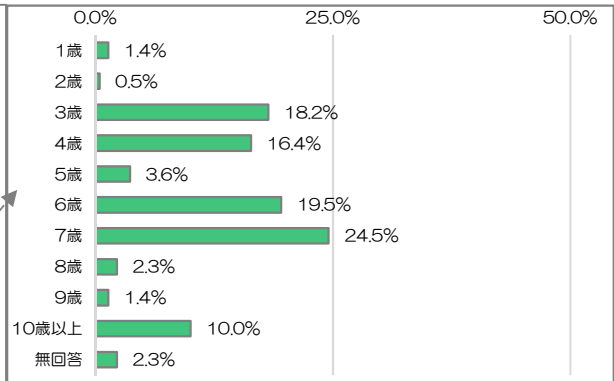
②現在就労していない母親の今後の就労意向

現在就労していない母親の就労意向は、「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」53.5%が最も多く、その年齢は「7歳」24.5%、「6歳」19.5%、「3歳」18.2%などの順となっています。「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」は25.5%、希望する就労形態は「パート・アルバイト等」が79.0%となっています。1週当たりの日数と1日当たりの時間は次のとおりです。

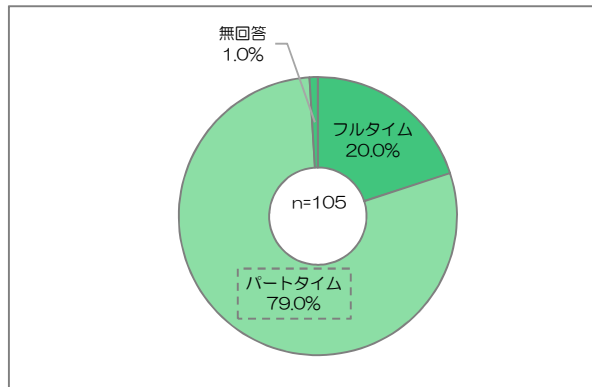
(母親の就労意向)



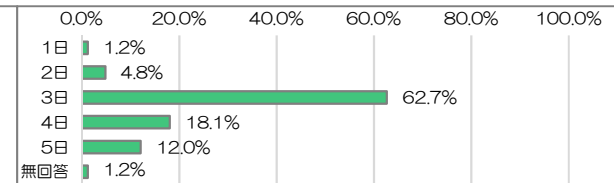
(一番下の子どもが何歳のときに就労したいか)



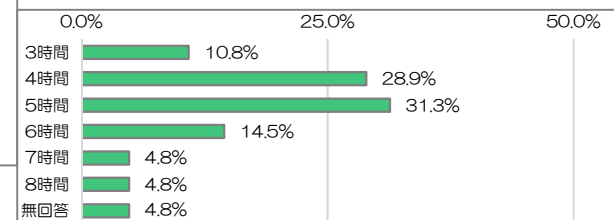
(すぐにでも就労したい場合、希望する就労形態)



(パートタイムを希望する場合の1週あたり日数)

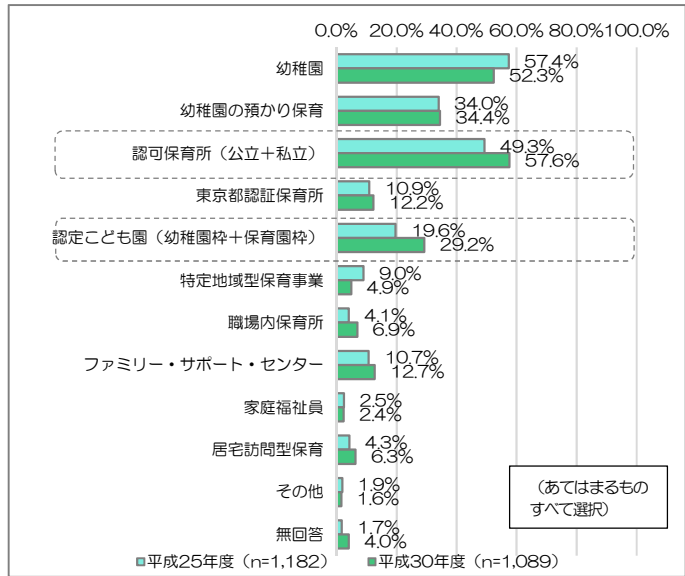


(パートタイムを希望する場合の1日あたり時間)



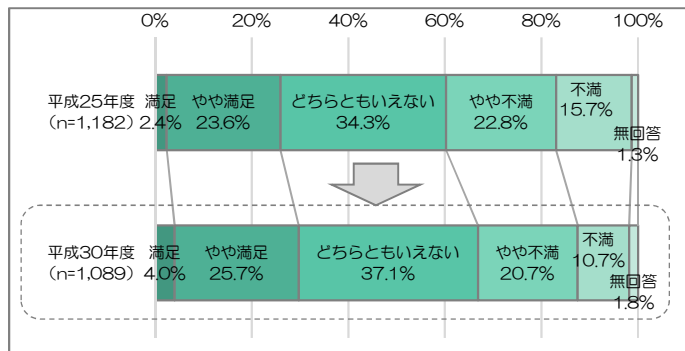
③平日の教育・保育の事業として「定期的に」利用したい事業

定期的に利用したいと考える事業として「幼稚園」が最も多く 52.3%となり、次いで認可保育所（公立）、認可保育所（私立）となっています。なお、認可保育所について私立・公立を合わせた利用希望については、57.6%となり、幼稚園を上回っています。平成 25 年度調査と比較すると、「認可保育所」の利用希望については 8.3%高くなり、「認定こども園」についても 9.6%、利用希望が高くなっています。



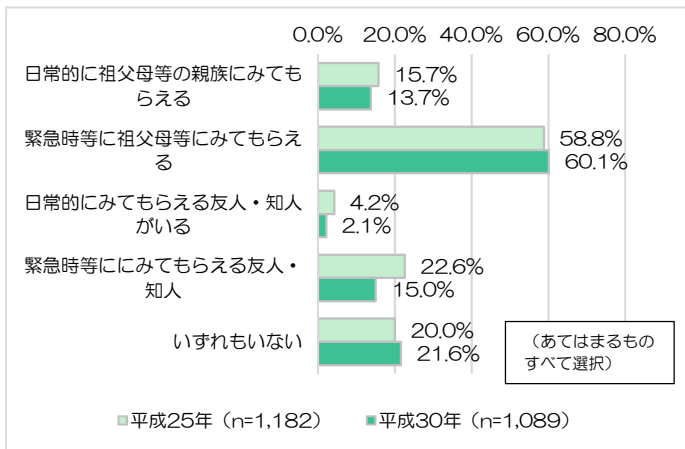
④小金井市の子育て環境や支援への満足度

小金井市の子育ての環境や支援への満足度として「満足」「やや満足」と回答した方が 29.7%となる一方、「不満」「やや不満」と回答した方が 31.4%と、不満の方が満足より上回っています。また、平成 25 年度調査と比較すると、「満足」「やや満足」と回答した方の割合が 3.7%増加しています。



⑤日頃お子さんをみてもらえる親族・知人

平成 25 年度調査と比較すると、日常的にみてもらえる祖父母等の親族が減って、緊急時等にみてもらえる祖父母等の親族が増えています。また、「緊急時にみてもらえる友人・知人がいる」方が減少している一方、「いずれもない」方が増加しており、孤立化傾向にある子育て家庭が増えているとみられます。地域における子育て支援のつながりの強化が期待されます。

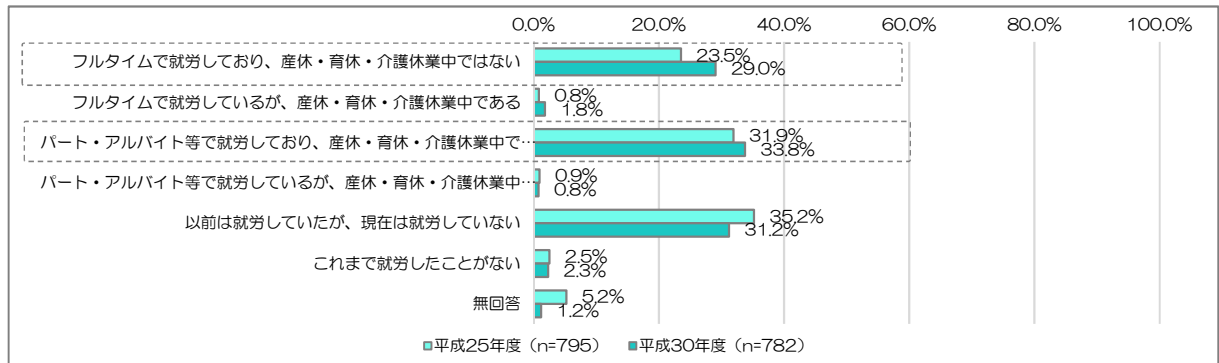


(2) 就学児童の保護者調査

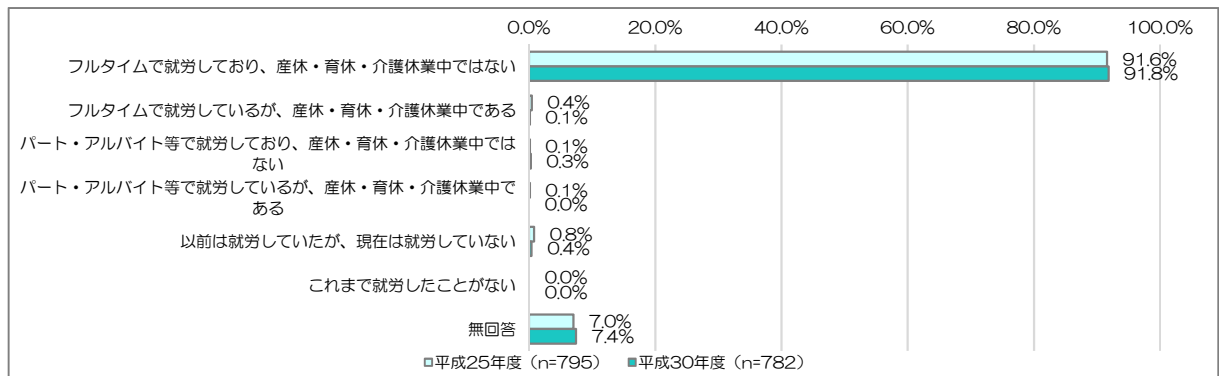
①保護者の就労の状況

母親の就労状況について、「フルタイムで就労中であり休業中ではない」方が29.0%、「パート・アルバイトで就労中であり休業中ではない」方が33.8%となっています。平成25年度調査と比較すると、「フルタイムでの就労」の方が5.5%、また「フルタイムで就労中であるが産休・育休中である」方が1.0%増えており、フルタイムでの就労率が6.5%増えています。

【母親の就労の状況】

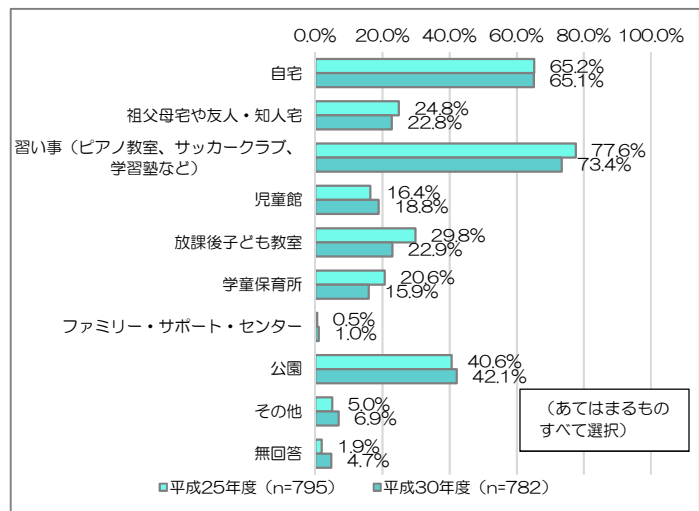


【父親の就労の状況】



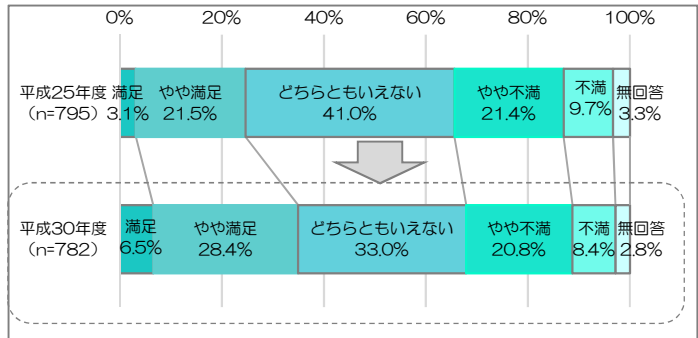
②放課後の過ごしませ方

今後、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいかについて、「習い事」と回答した方が最も多く73.4%となっています。現状としては自宅で過ごしているお子さんが、今後はできるだけ習い事で放課後を過ごしてほしいという希望が多いことが垣間見えます。



③小金井市の子育ての環境や支援への満足度

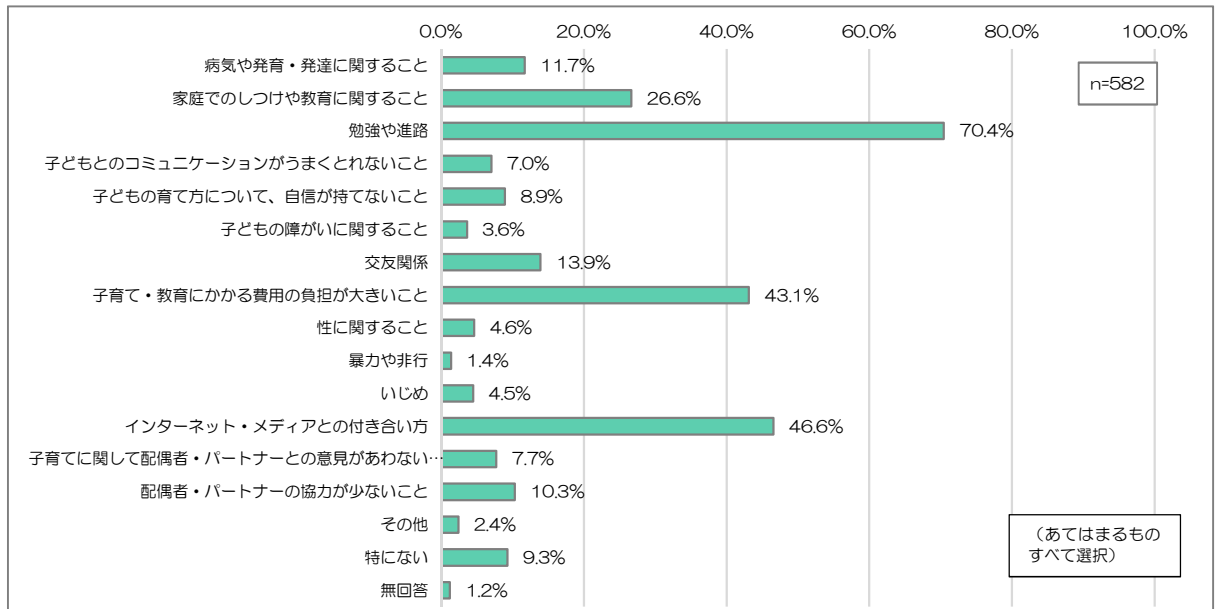
小金井市の子育ての環境や支援について「満足」「やや満足」と回答した方について34.9%となっています。また平成25年度調査と比較すると満足度については10.3%向上しています。



(3) 中学生・高校生年代の保護者調査

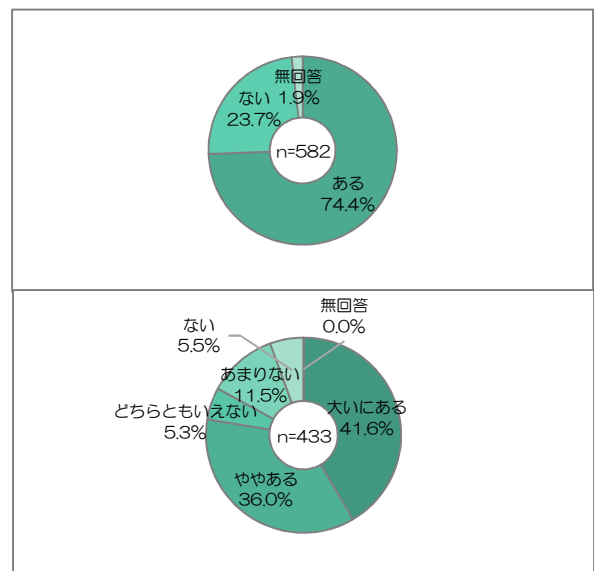
①子育てで悩んだり困ったりすること

子育てに関して、日頃悩んでいること気になることとして「勉強や進路」が最も多く70.4%となっており、次いで「インターネット・メディアとの付き合い方」が46.6%となっています。



②進学に対する不安

高校・大学等への進学に関する不安について「ある」と回答した方については74.4%となっています。



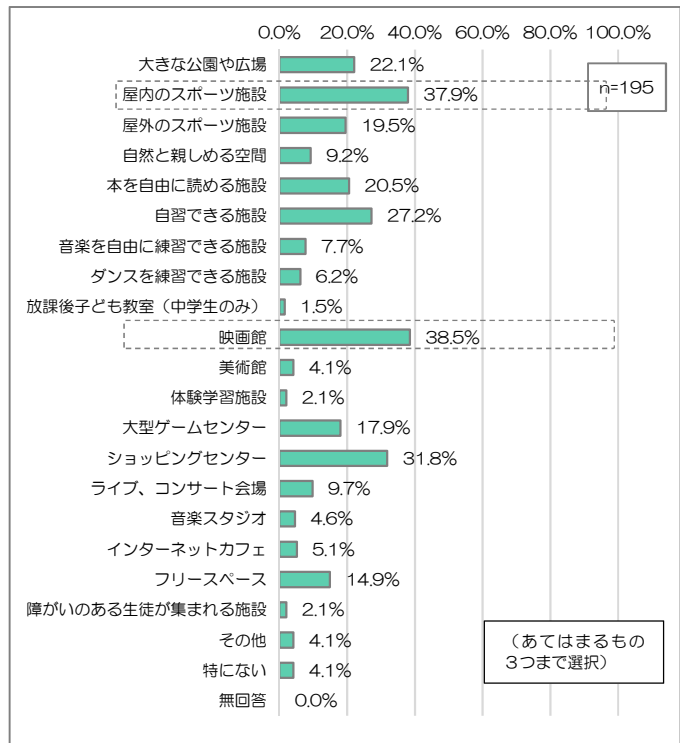
不安のある方に進学における金銭面での不安について伺ったところ、「大いにある」「ややある」と不安があると回答した方が77.6%となり、約8割の方が金銭面について不安に思っています。

(4) 中学生高校生年代の青少年調査

①放課後や休日に過ごしたい場所

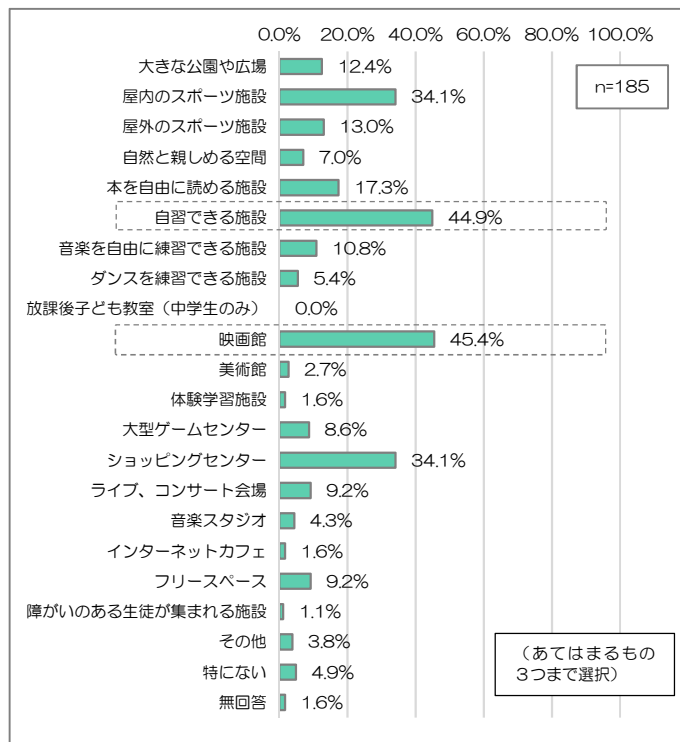
【13歳～15歳（中学生年代）】

放課後や休日を過ごす施設や遊び場について、「映画館」と回答した方が最も多く38.5%となり、次いで「屋内のスポーツ施設」となっています。雨の日など天気が悪いときでも過ごせる屋内の施設が求められています。



【16歳～18歳（高校生年代）】

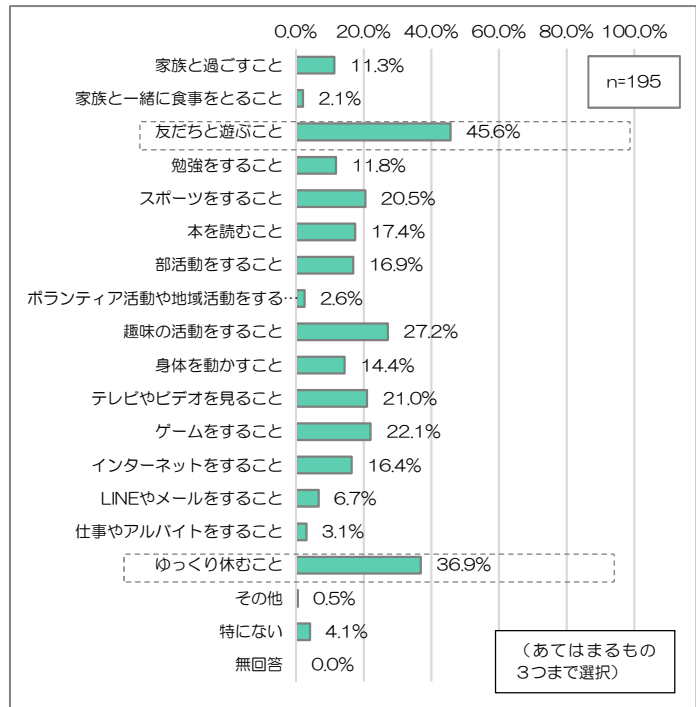
放課後や休日を過ごす施設や遊び場について、「映画館」と回答した方が最も多く45.4%となっています。また、「自習できる施設」と回答した方も44.9%となっており、放課後や休日を過ごす場として遊び場だけでなく、学習する場についても求められています。



②日頃もっとしたいこと

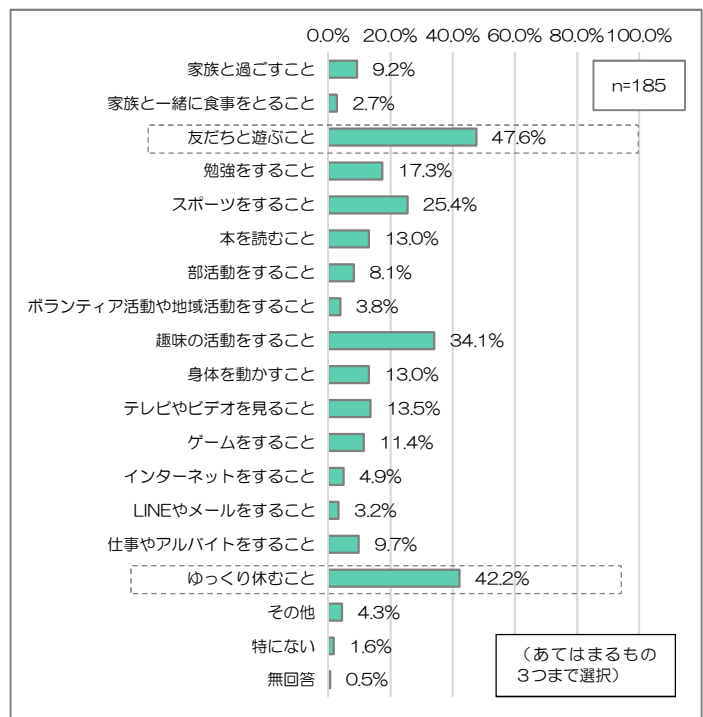
【13歳～15歳（中学生年代）】

日ごろ、もっとしたいと思っていることとして、「友だちと遊ぶこと」が最も多く45.6%となっており、次いで「ゆっくり休むこと」が36.9%となっています。



【16歳～18歳（高校生年代）】

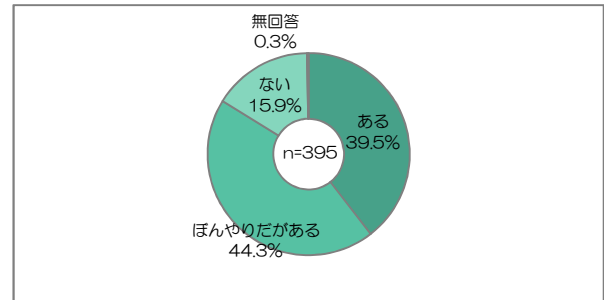
日ごろ、もっとしたいと思っていることとして、「友だちと遊ぶこと」が最も多く47.6%となっており、次いで「ゆっくり休むこと」が42.2%と高くなっています。



③将来のことについて

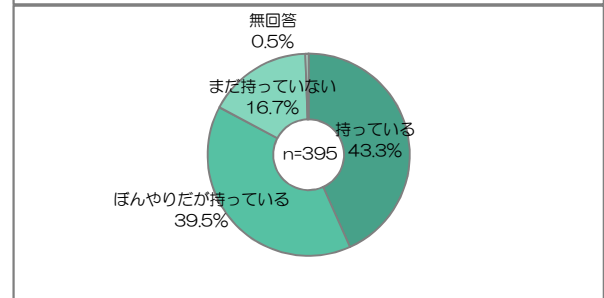
○将来つきたい職業

将来、つきたい職業が「ある」「ぼんやりだがある」と回答した方については83.8%となり、将来つきたい職業について8割以上の方が思い描いています。



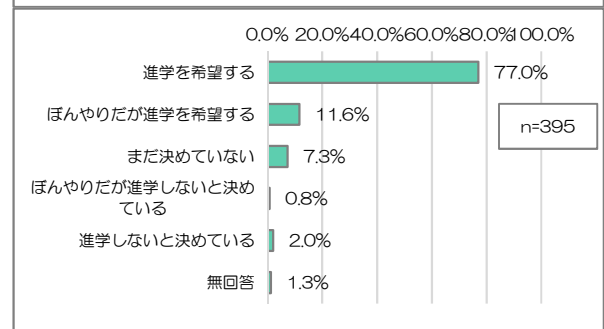
○将来の夢

夢を持っているかについて「持っている」「ぼんやりだが持っている」と回答した方については82.8%となり、夢については8割以上の方が持っています。



○進路について

進学について「進学を希望する」「ぼんやりだが進学を希望する」と回答した方の割合は88.6%と約9割の方が進学を希望しています。



④子どもの権利条例について

「小金井市子どもの権利に関する条例」について、「内容もよく知っている」「知っている」と回答した方が10.8%と、認知率については約1割にとどまっています。また平成25年度調査と比較しても、認知率についてはあまり高まってはいません。

